

【議事録】 要点筆記

会議名	エリアマネジメント専門分科会第2回	会場	芦屋町役場 31 会議室			
日時	令和3年4月27日（火） 19:00～:20:20					
件名・議題	1 開会 2 議事 (1) 芦屋港周辺における観光の現状と課題について (2) 全天候型施設の基本方針（案）について (3) 機運醸成事業の基本方針（案）について (4) 管理運営方法（素案）について 3 その他					
委員の出欠	会長	内田 晃	出		宗 重成	出
	副会長	志賀 勉	出		橋本 誠也	出
		大方 優子	出			
事務局等の出席	【事務局】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋町 芦屋港活性化推進室 ・ 芦屋町 産業観光課 商工観光係 【事務局支援】 株式会社オリエンタルコンサルタンツ九州支社					
合意・決定事項	<p>○芦屋港周辺における観光の現状や新型コロナによる動向を把握した。また、WEBアンケート調査や町内観光関係団体のヒアリングの結果を踏まえ、現状と課題及び戦略として考えられる方向性を確認した。</p> <p>○全天候型施設の活用は「砂像」の屋内常設展示（砂像展示専用施設）を基本とするものの、新型コロナの影響に伴う観光動向やニーズ把握など更なる調査を行ったうえで、整備方針を慎重に検討していく。</p> <p>○機運醸成事業として、キーパーソンとなる人材の発掘・担い手の育成、ネットワーク化による町全体への波及効果創出、テストマーケティングの実施、SNS等を活用し戦略的な情報発信を行う、の4点の基本方針をまとめた。</p> <p>○管理運営方法については、検討方針を踏まえ引き続き、市場調査も含めて調査検討していく。</p>					

エリアマネジメント専門分科会（令和3年4月27日開催分）議事録

1 開会

- 事務局より、新たに委員となった2名の紹介と、出席者（5名）・欠席者（0名）・感染防止対策のため傍聴なしについて報告。

2 議事

（1）芦屋港周辺における観光の現状と課題について

- 資料1にて、芦屋港周辺における観光の現状と課題について説明。【事務局】

○会議前に事務局から各委員に詳細な説明があったし、第1回会議でも芦屋港周辺における観光の現状については議論をした。内容が分からない点などあればご発言いただきたい。【会長】

⇒新型コロナの影響が非常に大きい。多くの企業とお話しさせていただく機会があるが、今後の投資について判断しかねるという企業が多い。経済の先行きが不透明なので、現状を踏まえ、継続的にニーズを把握しながら取り組んでいく必要がある。【委員】

⇒新型コロナの影響を受けてもレジャーへのニーズはなくなっていない。3密回避を意識した中で、近場で楽しめるというのが、芦屋港の強みになる。実際にレンタサイクルの利用者が増えている現状を踏まえ、事業を進めていく必要がある。【会長】

⇒新型コロナの影響により、レンタサイクルの需要が高まっている。遠賀川の河川沿いの自転車道と岡垣海岸線の自転車道が交わる場所に芦屋港が位置しているので、立地の面からも、自転車の可能性を踏まえた検討が大切になる。【委員】

（2）全天候型施設の基本方針（案）について

- 資料2にて、芦屋港周辺における観光の現状と課題や、新型コロナの影響に伴う動向などにより、活用方法を砂像に限定せず、観光集客や日常使いとしての交流機能を考慮した幅広い視点から、集客効果及び芦屋町への波及効果を生じる機能について、周辺地域における施設分布状況やwebアンケートなどにより絞り込みを行ったことを説明。【事務局】

○全天候型施設の活用については、検討した結果、芦屋港周辺エリアにとって、最も集客力のあるコンテンツ「砂像」の屋内常設展示を基本としつつ、新型コロナによる社会経済環境が大きく変化し、「サイクル機能」も求められている現状があることから、継続して来場者動向やニーズ把握による状況を見極めながら、サイクル機能などの他の機能について検討するという方向性である。この方向性について委員の意見を伺いたい。【会長】

⇒今後のニーズを慎重に把握するという点は、やるべきという意見である。イベントとするのか、美術館的な常設展示とするのかで、ターゲットもコンセプトも全く異なってく

- る。ここが非常に重要となる。現在のあしや砂像展に来ている人が、どういった思いで来ているか（美術品鑑賞として来ているか、季節のイベントとして来ているか等）を詳しく把握した方が良い。その結果を踏まえ、施設整備の方針を決定した方が良い。【委員】
- ⇒現在のあしや砂像展にイベントとして来ているのであれば、常設展示施設とした場合に同様の来場は見込めない。鳥取市にある砂の美術館は、鳥取砂丘という全国的に有名な観光名所があるため維持できているが、芦屋町の場合は地元の方が来るというイメージが強い。施設をつくった後にどう運営していくのか、リピーターの確保など検討しなければならない事項が生じる。【委員】
- ⇒色々なコンテンツと組み合わせれば、屋内展示には屋内の良さが生まれる。一方、屋外は青空の下で見る砂像、海をバックに見る砂像など屋外の良さがある。ニーズ把握を踏まえ検討していく必要がある。【会長】
- ⇒屋内展示施設にすると今までの環境と切り離されるため、開かれたものとしてつくること、つくり方や運営の仕方の工夫を考えていく必要がある。【委員】

- 芦屋港周辺における現状を踏まえると、全天候型施設が特色化を図れる観光集客施設となるために、「砂像」の屋内常設展示は最も集客力のあるコンテンツと考えられるが、新型コロナウイルスによる社会経済環境が大きく変化し、「サイクル機能」も求められている現状があることから、継続して来場者動向やニーズ把握による状況を見極めながら、サイクル機能などの他の機能についても慎重に検討していくという内容を基本的な方針として良いか。【会長】
- ⇒異議なし【全委員】

(3) 機運醸成事業の基本方針（案）について

- 資料3にて、機運醸成事業の基本方針（案）として大きく4点について説明。ワークショップやテストマーケティングにより、キーパーソンとなる人材の発掘や担い手の育成を図ること、芦屋町にある資源「ヒト・モノ・コト」を有機的につなぎネットワーク化による町全体への波及効果創出を図ること、テストマーケティングを実施し、芦屋港活性化事業に関する市場調査を行うこと、SNSを活用し、戦略的な情報発信を行うこと、以上の4点について説明。【事務局】

- 住民をどれだけ巻き込んでいけるかが重要で、基本方針（案）の4点をしっかりできれば良いものになる。【会長】
- ⇒全てできれば効果が出ると思う。ただし、PDCAをする上で情報発信はなかなか効果が見づらいところがある。民間企業においても、情宣活動をすることに対して結果把握（費用対効果の把握）という点が議論されている。効果を図るための専用アプリの活用など、多少のコストがかかってもIT技術による可視化は必要になるだろう。【委員】
- どの点も大事なことではあるが、全て実行できるよう、優先順位をつけ実行していってもらいたい。地域の協力なくしてはできない。漁師等を巻き込んでテストマーケティング

グをやることは非常に重要で、漁師の理解がないと難しい。また、サイクリストの方にも独自のマーケティングアンケートを進めながら、機運を高めてもらいたい。機運醸成事業として大きく4点を基本方針として良いか。【会長】

⇒異議なし【全委員】

(4) 管理運営方法（素案）について

■資料4について説明。【事務局】

○各施設の検討をしたうえで、メリット・デメリットを提示してもらった。何か意見はないか。【会長】

⇒多様な手法について、事業規模からすると指定管理者制度が望ましい。今後の集客、施設規模、建築費、ニーズ等を踏まえ、資金調達までも含め検討してもらいたい。【委員】

⇒運営組織の方向性については地域組織の活用と全国企業の活用とあるが、地元組織を活用しながら、助言できる全国企業の方がいるハイブリッド方式も考えてもらいたい。ハイブリッド方式はより効果的かもしれない。【委員】

⇒地域組織の活用という点でハイブリッド方式が考えられる。地元組織プラス企業等が全体を統括できると良い。地域組織を活用していくことは非常に重要となる。全国企業による一体管理は楽かもしれないがデメリットもあるのでこれからよく詰めていってもらいたい。【会長】

○各施設（各機能）によって、地元が強いとか、外部の力を借りたい、などに分かれるのではないか。各施設の内容によって検討するという視点も必要。【委員】

⇒ボートパーク等は専門性があり、一般的な民間事業者が経営できるかは難しさがある。漁協や事業に関わってくれる地元の方の力を借りていくことが必要。町内人材との連携も重要な視点となる。管理運営方法については、引き続き、民間企業ヒアリングも含めて調査検討をお願いする。【会長】

(5) その他

■次回のエリアマネジメント専門分科会については、フィールドワークというかたちで先に現地、芦屋海浜公園、レジャープールアクアシアンも見て頂いた上で会議を行いたいが良いか。【事務局】

⇒異議なし。【全委員】